

所属・氏名（ 保健医療学部 救急救命学科 氏名：江川 健太 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(学術論文) 血糖測定事案における低血糖及び非低血糖の傷病者の特徴についての研究《筆頭論文》	共著	2021 年 10 月	プレホスピタルケア,34 巻,5 号,75-77.	低血糖者の観察症状のデータから低血糖患者の特徴を識別し、救急搬送時の血糖測定事案に遭遇した際の判断材料を示した。(江川健太、倉敷中央病院・太田 友)
2	救急救命士による心肺停止前輸液における qSOFA 活用の可能性についての研究《筆頭論文》	共著	2023 年 4 月	プレホスピタルケア,36 巻,2 号,55-57.	救急時の敗血症性ショックの判定のための qSOFA の活用とそれ以外のバイタルサインや視覚所見について検討した。(江川健太、倉敷中央病院・山下貴弘)
3	救急現場における KPSS 未使用事案についての考察《筆頭論文》	共著	2024 年 12 月	プレホスピタルケア,37 巻,6 号,70-72.	救急現場の活動データから抽出可能な様々な脳卒中スケールの項目に独自の項目を加え、脳卒中事案を疑うべき特徴を検討した。(江川健太、倉敷市消防局・小林祥太郎、倉敷中央病院・瓜生悠平)
4	(報告・発表) 救急隊の傷病者搬出方法による影響及び搬送者負担についての研究		2024 年 7 月	日本臨床救急医学会	救急隊による救急車までの搬出方法(独歩、徒手、布担架、スクープストレッチャー)が傷病者のバイタルサインに与える影響、被搬出負担、搬出負担を検討した。道具を使用しない搬出で脈拍数の増加を認めたが、搬出者は道具を使用しない方が負担が軽い結果となった。(江川健太、倉敷市消防局・小林祥太郎、富松研太、林真佑、倉敷芸術科学大学・松村敬則)
5	病院搬送時間と傷病程度の 相関関係についての検討		2024 年 10 月	日本救急医学会	事案覚知から病院到着までの所要時間と搬送開始から病院到着までの所要時間と傷病程度には相関関係は見られなかった。このことから、早期搬送優先ではなく、適切な病態判断と病態に応じた病院選定を行うことも考慮する必要がある。(倉敷市消防局・富松研太、江川健太)
	乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保及び輸液の心原性ショック除外観察の検討		2024 年 10 月	日本救急医学会	特定行為の「乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保及び輸液」は強く心原性ショックを疑うものを除外したものが適応となっている。心原性ショックを除外するための項目として、バイタル以外の項目(接触時、座位)も有効であった。(倉敷市消防局・圓見将、江川健太)